

## 『教会づくり、人づくり』テトス1:1-9

- 1:1 神の僕、イエス・キリストの使徒パウロから——わたしが使徒とされたのは、神に選ばれた者たちの信仰を強め、また、信心にかなう真理の知識を彼らに得させるためであり、
- 1:2 偽りのない神が永遠の昔に約束された永遠のいのちの望みに基くのである。
- 1:3 神は、定められた時に及んで、御言を宣教によって明らかにされたが、わたしは、わたしたちの救主なる神の任命によって、この宣教をゆだねられたのである——
- 1:4 信仰を同じうするわたしの真実の子テトスへ。父なる神とわたしたちの救主キリスト・イエスから、恵みと平安とが、あなたにあるように。
- 1:5 あなたをクレテにおいてきたのは、わたしがあなたに命じておいたように、そこにし残してあることを整理してもらい、また、町々に長老を立ててもらうためにほかならない。
- 1:6 長老は、責められる点がなく、ひとりの妻の夫であって、その子たちも不品行のうわさをたてられず、親不孝をしない信者でなくてはならない。
- 1:7 監督たる者は、神に仕える者として、責められる点がなく、わがままでなく、軽々しく怒らず、酒を好まず、乱暴でなく、利をむさぼらず、
- 1:8 かえって、旅人をもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、信仰深く、自制する者であり、
- 1:9 教にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならない。それは、彼が健全な教によって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである。

### ○序論

今日読んでいるテトスへの手紙を牧会書簡と呼びます。

「健全な教会づくり、…すわなちそれは、健全な人づくりなのだ」ということで、認識を共有してもらいたい。

そういう理由で教会の総会議案には、「教会づくり、人づくり」の基本となる5つの事柄を書き示しています。

1. 聖書を愛する生活
2. 祈りを愛する生活
3. 礼拝を愛する生活
4. 聖霊を愛する生活
5. 教会を愛する生活

さて、このテトスの手紙が記されていたころも、「健全な教会づくり」という課題があったのです。その過程でそこに健全な指導者が建てられる必要もパウロは語ります。

肝は「健全な教会づくりは、人づくりである」というところです。

1:1-2 神の僕、イエス・キリストの使徒パウロから——わたしが使徒とされたのは、神に選ばれた者たちの信仰を強め、また、信心にかなう真理の知識を彼らに得させるためであり、偽りのない神が永遠の昔に約束された永遠のいのちの望みに基くのである。

### ○本論

#### I. 使命を再確認する

:1 神の僕、イエス・キリストの使徒パウロから

パウロはここで、自分自身を使徒と呼ぶと同時に「神の僕」とよび、この世的な権威によらない、神さまに絶対服従をする「奴隷」としての自分自身の立場を告白します。

パウロはまず、自分にゆだねられた使命を語ります。

:1b …わたしが使徒とされたのは、神に選ばれた者たちの信仰を強め、また、信心にかなう真理の知識を彼らに得させるためであり、

伝道者として、福音を宣べ伝え、たくさんの人々を救いに導くという働きこそがパウロの特徴的な使命です。しかしその上で、パウロはそこで「教会づくり」しかも、「健全な教会づくり」を大切にしているのです。

1) 「信仰を強める」こと。

2) 「信心にかなう真理の知識を得させる」こと。

それは、すなわち「健全な人づくり」であることを知ることができます。

パウロがこのクレタの地にテトスを置いた理由は、ここで救われた人々の群れを健全な教会とすることでした。

少し読み進めるとわかるのですが、その土地の風土、人々の気質や考え方に、教会の歩みが強く影響を受けて曲げられてしまう…という状況があった。だからそこに長老（監督）を建てて、健全な教会づくりを指導するように…というものだったのです。

はっきり言えること。わたしたちには、み言葉を学ぶ健全な機会が必要であり、「健全な信仰の人」として、健全な人づくり、教会づくりが大切なのです。

それがわたしたちの教会が心をむける霊的祝福です。

## Ⅱ. 健全な「希望」を語る

1:2 偽りのない神が永遠の昔に約束された永遠のいのちの望みに基くのである。

先ほど、「信仰を強める」「信心にかなう真理の知識を得させる」という「教会づくり、人づくり」の使命は、この神さまから約束された「永遠のいのちの希望」を、たしかに自分のものとするためなのです。

聖書は常々、「裁き」に対して「救い」を、「滅び」に対して「永遠の命」を語りま

す。だれが裁かれるのか…、この世の法のもとであれば、当然この国の法律を犯したものです。では、神様のもとではどうでしょう？

神さまから目を背け、この神さまの、み思いを知らず、知ろうともせず、ただ自分の思いや願い、自分中心に、また時には人間中心の勝手な言い分で生きるからです。

聖書は、この神に背を向けた歩みを「罪」と言います。そして、「罪の支払う報酬は死である」(ロマ6:23)とはっきり語るのです。

この裁きと滅びからの救い主を、神さまがお立てくださった、それが「福音」です。それがイエス・キリストであり、この方が負われた十字架の身代わりの死と復活こそが私たちに与えられた「永遠のいのち」への道なのです。

ヨハネ3:16 …それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

信じることで、この命を得、希望を知ることができるのです。この地上のどんな争いや災害によっても流れない希望があります。

### Ⅲ. そこで働き人を立てる

1:5 あなたをクレテにおいてきたのは、わたしがあなたに命じておいたように、そこにし残してあることを整理してもらい、また、町々に長老を立ててもらうためにほかならない。

使徒パウロは、自分だけが福音を宣べ伝える、教会を建て上げるということではなく、同労者の手を必要としました。

ひとつの教会に、ひとりの立派で素晴らしいメッセンジャーやリーダーがいれば、教会は建て上げられる…、というわけではありません。そこに、それぞれに働き人が起こされていく、というプロセスを経て、教会は建てられるのです。

パウロはそれを期待してテトスを、そのクレタのところに置き、またそこで何をすべきかを、具体的に指導していたのです。

1:5 あなたをクレテにおいてきたのは、わたしがあなたに命じておいたように、そこにし残してあることを整理してもらい、また、町々に長老を立ててもらうためにほかならない。

一人一人建てられる器のタイプは違う、ただそこに神さまが共にいてくださり、またそれぞれの教会にさらにいろいろな奉仕者が建てられていく、そうやって教会は建て上げられていくのだということです。

そのすべての土台にあり、このことで結ばれなければならない者というのが、「信仰を強められること、また、信心にかなう真理の知識を得させる」こと、そして「永遠のいのちの望みをしっかり持つこと」なのです。

今、わたしたちの教会で、「AGばいぶるアカデミー」を用いて、映像で、テーマごとに教師のお話を聞きつつ学んでいます。

教える賜物を持った、個性の違う先生方のお話しと話し方を通して、わたしも、そして信徒の方々も、バラエティ豊かな霊的経験ができるということを楽しみにできるようになっています。

何よりも、そこで語られる学びが「健全」であることが、とても大切なことなことで、これは、他では得難い祝福だとわかります。

1:9 (監督は、) 教にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならな

い。それは、彼が健全な教によって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである。

○さいごに)

先日、キリスト教会の歴史の薄い本を読んでいた。その中で近代、あの1930年代から台頭したアドルフ・ヒトラーのナチスが、ドイツの支配者となりその後ヨーロッパ世界を恐怖に陥れた時のことが短く記されていました。

ヒトラーを党首とするナチスは、巧みな大衆操作によって政権をとった。その主張は、国粹主義、反個人主義、反共産主義などである。

しかしナチスは、ドイツ人の魂をも支配するために、教会を用いようとした。

「ドイツ・キリスト者」と呼ばれる教会の指導者たちが、ナチスの教会支配の手先となった。

いわゆるカルト的キリスト教団体が政治結社の手先となり、その時代を支配していった…というものです。

そこに、聖書的な「健全な人づくり、健全な教会づくり」がなくなってしまうという異常な事態、雰囲気そこに圧倒的に広がっていたのです。

今日お読みしたテトスの手紙、またテモテの手紙の背景にも似たような状況がありました。ともすると、聖書の福音から離れて、自分たちに都合の良い信仰に様変わりさせようとするような、異端やその地の雰囲気というものが、教会のありさまをねじ曲げてしまうようなことがありうる…ということ、他人事にしないで見ている必要があります。

わたしたちは特に祈禱会で、世界のこと、日本のことを祈っています。祈っていると、この時代が抱えるゆがみに心がキューツと苦しくなるような気持ちになります。

そうして改めて御言葉にかえり、気づかされるのです。

キリストはこれほど、ゆがんだ世をも知っていてくださっている。そしてそこに生きる人が救われるように…と、その命をも捨ててくださったのだと。

ヨハネ3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。

それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

わたしたちが知らなければならないのは、この世を逃げ出すことではなく。この世をも愛する神さまの愛の大きさ、恵みの深さを経験して、健全な教会を、健全な信仰者を立て上げていくということだとわかるのです。